

1. 土づくり

(1) 土壌改良資材の施用

- ・土壌中のケイ酸やカリの不足を補うため、昨秋に土壌改良資材を施用していない場合は、必ず春に施用して地力の回復を図りましょう(表1、図1)。

表1 土壌改良資材の施用量の目安

資材名	施用量 (kg/10a)	成分量 (%)	
		ケイ酸	カリ
加里入りシリカエールプラス	100	23.0	3.0
シリカエールプラス	100	25.0	—
グリーンウェイブ DX ペレット	100	31.2	2.9

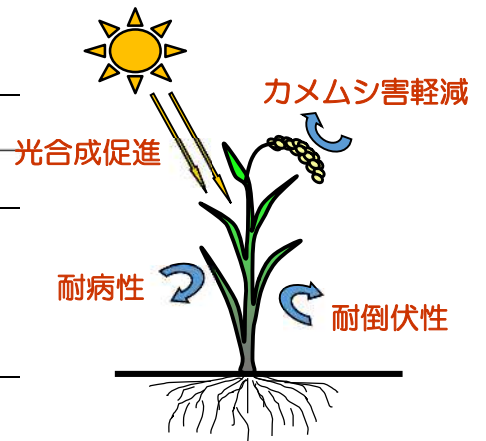


図1 ケイ酸の施用効果

(2) 作土深の確保

- ・ゆっくりと耕起し、作土深を 15cm 以上確保しましょう。
- ・畦畔からの漏水を防ぐため、畦塗り作業は丁寧に行いましょう。

2. 畦畔雑草の処理

- ・4月下旬までに畦畔の草刈りや除草剤散布を行い、斑点米カメムシ類の生息地となるイネ科雑草(図2)を減らしましょう。



スズメノカタビラ スズメノテッポウ
図2 イネ科雑草

3. 育苗計画の策定

(1) 育苗計画の目安

表2 育苗計画の目安(慣行苗)

品種	浸種	催芽	播種	出芽	搬出	緑化 ～硬化	田植	育苗 日数
てんたかく	3/28 頃	➡	4/10 頃	➡	4/13	➡	5/2	22 日
コシヒカリ	4/16 頃		4/26 頃		4/29		5/15	19 日
新大正糯	4/27 頃		5/3 頃		5/6		5/20	17 日

注) 前年夏期の高温により、糯品種は休眠が浅くなっていると思われます。浸種期間は短めにして下さい。
～種子消毒等の廃液は適正に処理しましょう～

(次ページに続く)

- ・浸種積算温度 120℃程度となるよう確実に浸種しましょう。
- ・ハウスの換気に努め、苗の徒長・老化を防止しましょう。
- ・密苗は、育苗日数 16 日で十分なマット強度が得られますが、老化しやすい特徴があります。育苗日数が慣行苗より3日程度短くなるよう計画しましょう。
- ・高温登熟回避のため、「コシヒカリ」の田植えは5月 15 日頃を中心に行いましょう(表2)。

(2) 育苗中の温度管理

- ・適切な温度管理により病害の発生を抑えましょう。
- ・風下側の裾を上げる等して換気を行い、ハウス内の温度を調節しましょう(表3)。
- ・多湿や水不足にならないよう、適切にかん水を行いましょう。

表3 温度管理の目安

浸 種	出 芽	搬出後(ハウス)
水温 10～15℃ (浸種初日は 10℃を下回らないよう注意)	育苗器 30℃	昼:25℃以下 夜:10℃以上

(3) 育苗中の病害対策

適切な薬剤処理により病害の発生を抑えましょう(表4、5)。

表4 病害防除方法

対象病害	薬剤名	希釈倍数	散布量	散布時期
ムレ苗 苗立枯病	ナエファインフロアブル	1,000～2,000 倍	500ml灌注/箱	播種時 ～緑化期
	タチガレエース M 液剤	500～1,000 倍		播種時 ～発芽後

表5 苗箱施薬

薬剤名	施用時期	施用量※	対象病虫害
ブーンレパード箱粒剤	播種時～移植当日	50g/箱	いもち病、紋枯病、初期害虫、ニカメイチュウ等

※密苗にする場合は1kg/10aになるよう50～100g/箱で調整する

注)JA からの購入苗は箱粒剤を散布済みです。

安 全 第 一 ！ (春の農作業安全運動 実施中)

安全フレーム付きトラクターの利用 ヘルメットの着用 シートベルトの着用

【お問い合わせ先】

JA いみず野営農指導課 TEL:52-6805 高岡農林振興センター射水班 TEL:26-8478

JA いみず野ホームページ <http://www.ja-imizuno.or.jp>